

平成28年度県立勝田工業高等学校自己評価表

目指す学校像		教育活動全体を通して、生きる力を身に付けさせ、心身ともに健康で豊かな人間性を備えた生徒の育成を図り、また、ものづくり教育を通して、グローバルな時代に主体的に対応できる創造力を備え、地域や産業社会に貢献できる人材の育成を目指す。								
昨年度の成果と課題			重点項目		重点目標			達成状況		
＜成果＞ ・平成27年度本校総合工学科を卒業した生徒のうち約70%が就職(内定率100%)し、30%が進学している。 ・資格指導・ものづくり競技会での活躍、様々な広報活動等により、平成28年度入学者選抜において志願先変更後の志願倍率が1.19倍であった。 ・生徒の問題行動による指導件数が少なく、頭髪・服装指導における協力体制が維持されている。 ・学校行事における生徒会活動は活発に行われ、部活動加入率も70%を越え、運動部・文化部とともに活発に活動している。 ＜課題＞ ・基礎学力の定着と授業や学習への取組の充実および専門性を高める指導体制の確立が必要である。 ・体系的なキャリア教育を推進し、生徒一人一人が希望する進路の実現を目指すことが必要である。 ・登下校の際や校外における問題行動の把握に努め、生徒理解を踏まえた生徒指導を実践していく必要がある。	キャリア教育の推進		①地元企業等との連携事業や企業体験学習を拡大・充実させ、確かな学力(生きる力)を身に付けさせ、主体的な進路選択ができるようにする。 ②大学等との連携事業、大学の出前授業、進学補講等の充実を図り、国公立大学への進学を含め希望する大学への合格を目指す。 ③キャリア教育を通して勤労観や職業観の育成を図り、就職希望者の内定率100%達成、進学希望者の合格率100%達成を目指す。			B				
	個性を伸ばす教育の実現		④単位制総合工学科として適切な教育課程の研究と実践に努め、授業規律の確立と基礎学力の定着に努めながら、専門性の深化を目指す。 ⑤基礎資格の合格率アップを目指すとともに、電気工事士や技能検定等の高度な資格取得への合格者を増加させるとともに、ジュニアマイスター取得30名を目指す。 ⑥言語活動の充実を通して、コミュニケーション能力を高め、グローバル化した社会に対応できる人材を育成する。			B				
	豊かな心の育成と安全教育の推進		⑦基本的な生活習慣を確立させ、規範意識の醸成と問題行動の未然防止を図る。 ⑧施設設備の点検と安全教育を充実させ、学校事故撲滅を目指す。 ⑨ホームルーム活動の活性化と、学校教育全体を通じた道徳教育の推進及びボランティア活動の充実を図り、いじめ問題等の未然防止に努める。			B				
	部活動・特別活動の活性化		⑩部活動への積極的参加を奨励するとともに、生徒の自主的活動の活発化と学校行事への積極的参加を促す。 ⑪特別活動の充実を図り、学校行事等を通して自発的・自治的な態度の育成に努め、文化祭を成功させる。			B				
	広報活動の推進		⑫開かれた学校づくりを目指し、中学校への出前授業や公開授業を実施するとともに、地域や保護者・中学校等へ情報を発信し、本校の特長をアピールする。 ⑬PTA行事等の保護者への周知を図り、PTA活動の活性化のための具体的な方策を検討する。			B				
評価項目		具体的目標		具体的方策			評価		次年度(学期)への主な課題	
教 科	国語	基礎学力の向上を図る。		社会人として必要な国語常識を身につけさせるために、教科書だけでなくテキストを積極的に活用する。また、各学年で課外や補講などを実施し、丁寧な指導支援を行う。①②			B	B	・漢字検定受検者が3年ぶりに50名を越え、昨年度に続き2級の合格者も出た。今後検定受検の有無に関わらず、準2級レベルの層を厚くしていけるよう、継続的な取り組みが必要である。	
				授業でのルールをしっかりと身につけさせるとともにノート等を定期的に点検し、授業に対するしっかりとした取り組みを習慣づけさせる。⑦			B			
		授業の改善を目指すとともに、その研鑽に努める。		担当者全員が授業を公開し指導方法や内容について研究協議を行い、授業の充実と改善に取り組むとともに、各種研修会等に参加し、自己研鑽に努める。④			B			
	地理歴史	基礎学力の向上を図る。		授業を受けるマナーを向上させ、基礎基本の学力の習得を図る。④⑦			B	B	地図(掛け図)等の資料が古くなっており新しいものに替えるよう努める。地理がカリキュラムから削除されたので地理的視野に立った歴史教育を推進していく。	
				学習ノートを定期的に確認する。④			B			
				学習内容の理解が不十分な場合は、補習や課題など計画的な指導を行う。④			B			
		指導方法の工夫と研究を行う。		学習意欲を高める指導を工夫する。④			B			
				分かる授業のための指導を工夫する。④			B			
				教材や資料を積極的に活用する。④			A			
				IT機器を必要に応じて積極的に活用する。④			B			

教科	公民	基礎学力の向上を図る。	授業を受けるマナーを向上させ、基礎基本の学力の習得を図る。	⑦	B	B	時事的問題を扱い、問題意識を持って取り組ませよう授業内容を工夫する。
			学習ノートを定期的に確認する。	④	A		
			学習内容の理解が不十分な場合は、補習や課題など計画的な指導を行う。	④	B		
		指導方法の工夫と研究を行う。	学習意欲を高める指導を工夫する。	④	B		
			教材や資料を積極的に活用する。	④	A		
			IT機器を必要に応じて積極的に活用する。	④	B		
	数学	基礎学力の向上を図る。	基礎学力が定着していない者や成績不振者に対して、学力向上を助けるため補習を行う。	④	A	B	基礎学力の向上、成績不振者の把握のため計画的に小テストを行い、補習の内容を充実させる。
			学習内容の定着のため、小テスト等を利用して学習の理解度を把握する。	④	B		
			机間巡視を通して、学習の遅れがちな生徒に対して説明を行う。	④	B		
		進路希望に応じた学力の向上を図る。	大学進学等を希望する生徒のために、課外等を実施する。	②	A		
	理科	基礎学力の向上を図る。	基礎学力の向上のために問題演習や小テストを実施し、理解度を把握しながら授業を進める。理解の定着を図るために補習や個別指導を行う。	④	B	B	数学的な基礎学力の向上を含めた指導で理科に対する理解度を高める。
		理科に対する興味・関心を深めさせる。	学習内容と日常生活を関連付けて説明し、新聞記事の利用や演習実験を積極的に授業に取り入れることで、理科に対する興味・関心を深める。	④	B		
		生徒が理解しやすい授業への改善に努める。	授業内容・方法について担当者間で協議を行い、生徒に理解度に合わせた授業を行う。	④	B		
	体育	基礎体力の向上を図る。	年間を通じ授業の中で、トレーニング・補強運動を継続的に行う。	④	B	B	生徒の資質・能力を高めるための生徒の思考・判断を育む指導を工夫する。
			体力テストでの目標設定を明確にし、意欲的に取り組ませる。	④	A		
			運動量をできる限り確保し体力の向上を図る。				
生涯を通じて運動に親しんでいく能力や体力を育てる。		球技において種目を選択させ、生徒達で練習計画を立てて競技を進める能力を身に付けさせる。競技特性を理解し、取り組みを通して協力する態度を養う。	④⑨	B			
生涯を通じて健康な生活を送ることが出来る資質や能力を育てる。		保健ノートを定期的に提出させ点検し、健康についての理解を深めさせる。社会の状況や時事についての関心を高め、教科学習に活かす。	④⑨	A			
芸術	基礎技能の向上を図る。	授業を受けるマナーを向上させ、落ち着いて学習に取り組める雰囲気づくりに努める。	④⑦	B	B	生徒の実態に合った意欲を引き出す指導方法の工夫	
		生徒の実態に合わせた課題を工夫すると共に、個別指導を充実させる。	④	B			
	安全教育の徹底。	材料・用具類の整備と管理を確実に行うと共に、正しい使い方や片付けなどの指導を徹底する。	⑦⑧	B			

教 <
--

庶務	PTA総会等各種行事の連絡を、PTA会員やPTA役員に対し確実にを行い、連携を密にする。	PTA総会等各種行事の連絡を、できるだけ早い時期に確実に、PTA会員やPTA役員に対して行い、各種行事等への参加率を高める。	⑬	B	B	保護者やPTA役員への各種連絡を引き続き確実に行う。企業見学会では1社は大企業に行けるよう早めに要望する。秋に学校見学会を実施する。給油希望日(特に年末年始)を業者に確実に伝える。
		PTAの広報紙を通して、学校の教育活動やPTA活動を工夫しPRする。	⑫	B		
学習指導	基礎学力の向上を図るとともに進学希望者の更なる学力の向上。	基礎学力不足の生徒に対し補習等を実施し、学力の底上げを図る。進学希望者については進学課外や出前授業に参加させることにより、進学意欲を高め、更なる学力の向上につなげる。	④	B	B	・基礎学力の向上。 ・進学課外や出前授業の充実を図り、学習意欲の向上につなげる。 ・資格・検定試験の受験者の増加と合格率のアップを図る。 ・各検定試験の担当者との連携を密にし、スムーズに検定試験を行えるようにする。 ・選択科目履修のガイダンスや説明会を充実させる。
	選択制を生かした学習意欲向上。	保護者との連携を密にし、生徒に卒業後の進路を考えさせ、その進路につながる選択科目を自ら選ばせることで、学習に対する意欲を高める。	④	B		
	資格取得の推進。	関係部署と緊密な連携をとり、顕彰制度の利用により資格取得への意欲を高める。	⑤	B		
特別活動	生徒会の自主的な活動を促進させる。	生徒会が中心となり各種行事を行い、自主的・積極的に企画運営できるように努める。更に、何事も計画的かつ効率的な行事の遂行に努める。特に文化祭では綿密な計画と円滑な運営を行う。	⑧⑨⑪	A	B	生徒が特別活動に対して何事にも自主的に実施できるような準備と段取りが必要である。また、各行事に関する連絡について教員・生徒・保護者が連携を取って円滑な運営が出来るようにこれからも心がけていきたい。
	ホームルーム活動を活性化する。	年間計画に基づき各ホームルームの活性化を図るとともにより一層具体的な活動が行えるように努める。また、各分掌から出されるテーマをLHRに反映し効率的な学級活動を展開をする。	⑧⑨	B		
	部活動への積極的参加を促す。	各部活動資料を活用し、実演などを取り入れたPRを行う。また、部活動参加率が全生徒の70%以上になるように働きかけ、活発な部活動およびレベルアップを目指す。	⑩	B		
生徒指導	基本的な生活習慣と規範意識を確立させる。	基本的な授業態度の育成、学習習慣の確立、そして遅刻減少を図る。(遅刻カードの利用)	⑦	B	B	生徒への規範意識の向上を行事や集会を通して高めていく。LHRにおいて「交通安全・携帯電話のマナー・いじめ防止について」の授業を実施してもらい生徒の事故や問題行動を未然に防ぎたい。また、学習障害等生徒の実情に則した生徒指導の実践を継続していく。
		登校指導・職員立哨・巡視(朝・昼休み)を1日2名で通年実施する。また、定期考査中の校外巡視を実施する。	⑦	A		
		HRIにおける交通安全教育、交通講話(外部講師)・バイク指導、自転車点検等の実施により交通マナーやルールを守る心を育て、命の大切さを呼びかける。	⑦⑨	B		
		薬物乱用防止教室を実施する。	⑦	B		
	工業人として清潔な頭髪服装容儀等における規範意識の高揚を図る。	全職員で服装容儀等における規範意識の高揚を図る。	⑦	B		
	学校教育全体を通した道徳教育を推進する。	心の教育を進め、他人を思いやる豊かな心の醸成に努める。また、いじめ防止および早期発見のため「生活アンケート」を利用し生徒への実態把握に努める。	⑨	A		
		携帯電話の使用制限を守り、マナーある使い方を指導する。	⑨	B		

進路指導	望ましい職業観・勤労観を育成する。	学年と連携し1年次より計画的な進路指導を行い、自己の能力・適性を生かし望ましい職業観を育成する。①②③	B	B	・3年間を通した進路指導計画充実 ・学年と連携しLHR等の時間を利用し早い時期からのキャリア教育の実施を図る。 ・インターンシップの充実 ・1年次からの進路ガイドブック活用 ・地元企業との情報交換 ・全職員による面接指導の継続 ・進路決定者による下級生への体験講話の継続 ・ネットワークを活用した生徒への進路情報提供の拡充
		インターンシップ(就業体験)などを通して、職業観・勤労観の形成に努める。①②③	A		
	生徒1人ひとりの進路希望に応じた進路指導の充実を図る。	企業への求人要請を進めるとともにそれぞれの企業が求める人材の的確な把握に努め、就職希望者の合格内定率100%を目指す。②③	A		
		進学希望者が学部学科を適切に選択できるよう大学・専門学校との情報交換を進める。②	B		
		3学年との連絡を密にし、保護者会や三者面談で進路に関する情報を積極的に提供する。①②③	B		
保健指導	地域との連携を深め、地域が求める人材育成を図る。	ひたちなか商工会議所やひたちなかテクノセンター等との連携を図り、企業が求める人材を育成するとともに、就職時のミスマッチの解消や早期離職の防止に努める。①	B	B	校内の安全・衛生と生徒・職員の健康な生活を維持するための取り組みを引き続き行っていく。
	危険防止と環境整備のために清掃活動や校内安全点検を継続実施する。	環境整備委員を中心に全学年一斉清掃・環境整備に取り組む。また、安全点検表を利用して清掃分担ごとに月一回の点検を行い、改善すべき箇所がある場合には迅速に対応する。⑧	A		
	生命尊重に関する教育の充実。	全学年を対象に講話を実施する。1年生を対象に性教育・AED講習等、専門講師を迎えて実施する。⑨	B		
図書	心身ともに健康であるための保健情報広報の充実。	衛生や・健康に関して生徒に知らせたい情報をわかりやすく伝えるために、資料を利用するなどして啓蒙・広報活動に努める。⑦	B	B	・栄光幼稚園での読み聞かせは、回数参加人数共に前年度より拡充できた。次年度も更なる充実を図りたい。 ・前年度に引き続き、広報活動の充実が課題である。 ・視聴覚室に新たなプロジェクターを導入することにより、利用の拡大を図りたい。
	情報提供サービスの向上と充実を図る。	レファレンスサービス、リクエスト予約サービスの充実に努める。④⑤	B		
		生徒の知的好奇心と興味を抱かせる書籍の選定と購入に努める。④⑤	B		
	図書委員会活動と行事の充実を図る。	図書委員会活動を通じて図書館とクラスのパイプ役としての意識を高める。⑨	B		
		読み聞かせ体験を通じた幼稚園との交流により社会性を学ぶ。⑪⑫	A		
		読書会や研修会、芸術鑑賞会等の行事の充実に努める。⑩⑪	B		
1年次	施設の有効利用と環境整備の充実を図る。	自学自習の場としての図書館の利用を促進する。①②③	B	B	・集団行動におけるルール・マナーを守ることの重要性を引き続き指導していく。 ・基礎学力を向上させるため学習に取り組ませる体制を検討し築いていきたい。 ・学校行事の事前事後の指導を手厚くしていきたい。
	協同性や他人を思いやる豊かな心を育てる。	積極的に学校行事に参加させ、協同性や思いやりを身に付けさせ、集団生活の中で責任ある行動がとれるようにする。自分の存在意義を認識させる。⑨⑪	B		
	基礎的・基本的な知識・技術技能を身に付けさせる。	真摯な態度で授業を受けさせる。提出物の期限を守らせる。資格検定試験についても、意欲的に取り組ませる。③④	C		
	基本的生活習慣の確立と健全な高校生活を送らせる。	自主的に挨拶ができるようにする。身近なルールやマナーを守らせ、安全で安心な高校生活を送らせる。⑦⑨	B		

2年次	健康管理に心がけ、何ごとにも全力で取り組むことのできる意欲と体力を育成する。	規則正しい生活ができるように高校生としての自覚を持たせ、規範意識の向上に努める。また、社会的信頼の大切さを知らせる。	⑦	C	B	・規則正しい生活ができるよう、規範意識の向上に努める。 ・生活態度と進路意識を醸成し進路決定に繋げたい。 ・基礎学力の向上に引き続き取り組む。
		保護者と連携を取りながら、高校生活の安全を最優先させる。	⑧⑬	A		
	将来を見通し、高校生活の中で得られる知識・技術・技能の習得に努めるとともに、豊かな社会性を身につけさせる。	授業に真剣に取り組む基礎学力を身に付けさせ、知識・技術・技能の習得を資格取得を通じて行う。	④⑤	B		
		部活や学校行事への積極的な参加を呼びかけ、修学旅行・文化祭・野球応援等を通じて学校やクラスへの帰属意識を持たせる。	⑨⑩⑪	B		
		インターンシップを通して職業意識を持たせるとともに将来に向けての準備を始めさせる。	①③	A		
3年次	一人一人の適性を踏まえた上で、具体的な進路目標を現実のものとしていく。	進路指導部と連携し、社会の現状を把握するとともに、昨年度の適性検査をもとに、自分自身の適性を冷静に判断させ、生徒の能力・適正に応じた進路指導を推し進める。	①②③	B	B	・朝学習を行ったことで、全員が参加しないでも学習をする気持ちになって行ったことが良かった。 ・業者を利用した全体、グループ面接練習を夏休みを利用し実施したことは生徒の刺激になった。 ・学校全体での面接練習の回数を多くし職員全体で指導・支援できる体制が素晴らしく生徒のためになった。 ・11月、1月に就職内定者による1・2年生への講演会を各クラスで行った。人前で話す良い機会であり、3年生自身も話をしたいという者がいて、1・2年生には自身の進路を考える良い機会となった。 ・就職状況をいっても説明することで意識の高揚をはかれると思われる。
		保護者と密なる連携を取りながら、学校生活の安全を最優先させ、きめ細かい助言をしていく。	⑦⑫	A		
		授業に真剣に取り組むことにより、知識・技術・技能のさらなる習得に努めさせる。また、週4日の朝学習・基礎学力診断テストを通じて基礎力の充実を図る。	④⑦	B		
	ひとりの人間としての社会常識を身に付けさせることはもちろんのこと、他人を思いやる心を育てる。また必要に応じて我慢強さと忍耐力を発揮できるようたくましさを育成する。	校則や公衆道徳を尊重し、進んで守ることにより、社会規範意識の向上を図る。	⑦⑨	C		
		挨拶を励行し、他人への思いやりを忘れない心をさらに育てる。	⑨⑩	B		
学校運営	豊かな心の教育の充実を図る。	道徳教育や生徒指導を通して、基本的な生活習慣を確立し、規範意識を高めるとともに、いじめなど問題行動の未然防止に努める。	⑦⑨	B	B	・地域の中学校との交流事業や広報活動を通じて中学校との連携を図ることが達成できているが、今後もさらなる広報活動の拡張に努めたい。 ・地元企業や大学等との連携を推進し、進路指導・キャリア教育の充実を図ることが達成できているが、今後も充実に努めたい。
	情報教育と国際理解教育の推進を図る。	授業や各種行事を通じて情報教育と国際理解教育を積極的に推進する。	④⑥	B		
	地域の中学校との連携を図る。	地域の中学校との交流事業や広報活動を通じて中学校との連携を図る。	⑫	B		
	地元企業や大学等との連携を推進する。	地元企業や大学等との連携を更に推進し、進路指導・キャリア教育の充実を図る。	①②③	B		

※評価基準: A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない